

産業界と教育現場の連携を推進する
コーディネーターに関する研究会（第1回）

日時：令和8年1月15日（木）10時00分～12時00分

場所：オンライン

出席者：細田座長、岩淵委員、岩本委員、鍵本委員、工藤委員、斎藤委員、繁吉委員、利根川委員、中原委員、宮本委員、室井委員、山内委員

議題：

1. 開会挨拶・委員照会
2. 事務局説明
3. ゲストスピーカーによるプレゼンテーション
4. 委員による意見交換
5. 閉会挨拶

議事要旨：

事務局説明後、意見交換を実施。

意見交換内容：

コーディネーターの有効性

- 特に高校生が探究学習を進める際にはコーディネーターが有効である。一方でコーディネーターが活躍するためには学校側の受け入れ態勢を整える必要がある。
- コーディネーターの役割は各地域にあわせて柔軟であるべき。
- コーディネーターの存在は有効だと考えるが、その活躍のためには教育現場にリスペクトを持つこと、負担について丁寧に説明することが重要。
- 子どもたちが探究的な学習について相談する相手としてコーディネーターは有効。

コーディネーターの派遣

- 企業から社員をコーディネーターとして派遣することも一案としては可能だが、専任として派遣できる的確な人材には限界があるので、兼務や、チームとしての人材提供が現実的ではないか。
- 特定の企業に人材輩出の負担が偏らないことが大事。例えば、1,000人以上社員がいる企業は4,000社ほどあるので、それらの企業が分掌してコーディネーターを派遣できれば良いのではないか。

その他

- 企業連携の取組について考える際には、子供の関心を起点に授業・プログラムを作ることが重要。
- どのような社会・地域を作りたいのかということをもとに、企業と連携を進めることが重要。
- 企業との連携は単発ではなく継続的であるべき。
- デジタル化・グローバル化の中で、世の中は常に動いている。今後どのような未来を生きていくのかを考え、大人も子どもも探求することが重要。

以上